

障害年金の冊子発行

精神研究会が地域差問題で

精神障害年金研究会（高橋芳樹代表）は22日、障害年金に関するブックレットを発行した。23日に都内で開いた勉強会で配布した。高橋代表は厚生労働省の検討会が認定の地域差解消のために7月末にまとめたガイドライン案について「支給を制限する方向での平準化になりかねない」と批判的に見ている。

ブックレットのタイトルは、「精神・知的障害に係る障害年金の認定の地域差に関する専門家検討会」問題点の批判と私たちの課題」。元社会保険事務所職員の高橋代表や社会保険労務士、ソーシャルワーカーらが障害年金の問題点を解説し、検討会の動向に関するQ&Aも収めた。ガイドライン案は、指標をもとに等級（1～3級）を導き出し、それを目安とすることが柱。厚労省は9月10日まで意見を募集している。それを受けて年内に固め、2016年1月施行を目指す。

同研究会は全国精神障害者家族会連合会（解散）の所得保障分

科会をベースとして池
末美穂子・元日本福祉
大教授らが立ち上げ、
障害年金に関する書籍
を発行してきた。

ブックレットはB5
判で104葉。1500
円（税抜き、送料
別）で頒布している。
問い合わせはメール
（t_yosiki_0424@
yahoo.co.jp）で。